



### 就職状況

円高の就職戦線への波及が予想されたが、昭和六十一年度の工業化学科学生にとっては、適度に活況であったと言える。

就職先の産業種別に見ると、製造業中、化学工業に分類される

業種が圧倒的に多いが、このうち大手の会社は前年度比約三分の二に採用人員を縮小しており、この方面は一段と難しくなりつつある。

代って情報産業の伸びが著しく、現在の就職を活性化させている一因になっていることを理解しておくべきであろう。

産業分類	人数		主な企業名
	大学院	学部	
化学・食品	15	92(7)	住友ベークライト、鐘淵化学、ナブチ、凸版印刷、小野田セメント、東亜化学、住友セメント、東洋硝子、王子製紙、大昭和製紙、本州製紙、昭和産業、日本ペーパーインダストリー、三菱油圧、アキレス、東京化成
製薬	2	7(1)	三共、アムキ、エスエス製薬、全薬工業、小野薬品、日研化学
電気		2(10)	日立製作所、日本電気、東芝、松下電器、三菱電機、サンヨー電気
一般機械		3(3)	日本電気ホームエレクトロニクス、富士通
精密・輸送		3(3)	小西六写真、月島機械、日本精工、日本航空電子、アイシン精機
鉄鋼	1	1	金門製作所、シブデン時計、理想科学
金属・非金属		1(0)	新日本製鐵、三島光産
その他		6(3)	三井金属、日本金属、日立粉末冶金
建設	1	6	サウヨー工業、ビシロン、岡村製作所
小売業		1(0)	新島工務、久保田建設
情報・サービス業		6(0)	フジモリ産業、八百半デパート
金融・保険		3(3)	日本電気エンジニアリング、日本電気ソフトウェア、日本アイビーエム、コンピュータサービス、東芝エンジニアリング、ソード、インテック
運輸	1	1	山形銀行、山一證券
電気・ガス		1	第二電電、日本電信電話
教員		1(3)	中部ガス
公務員		2	広島・静岡教員、大和学園、武蔵野学園、日大理工助手
自営		5	東京酒造、神奈川製菓
計	23	282(6)	[含む自営、( )：女子]

### 工業化学科創立五十周年 記念事業開催にむけて始動

我々の工業化学科も昭和十三年の創立以来、約半世紀を経過し、一六〇〇名を超える卒業生が各界で活躍しておられます。来る昭和六十三年は創立五十周年にあたり、記念事業開催に向けて準備委員会(委員長・松本太郎教授)が発足いたしました。

記念事業としては記念誌・工業化学科創立五十周年記念誌の発行、祝賀会開催および優等生への奨学金授与等を予定しております。

工業化学科各位には記念事業の実施に向けてご協力の程お願い申し上げます。

研究室	指導教員	卒研内定者数	
		男子	女子
分析化学	内海・奥谷・磯崎・坂川	24	24
化学工学	小島・越智・橋本・栗原	3	3
無機工業化学	荒井・青木・安江	3	3
高分子合成	池村・武末・沢口	14	18
有機合成化学	板橋・中沢・上條	16	17
有機物理化学	和井内・真下	3	2
油化学	松本・秋久	2	3
有機工業化学	田村・深津	12	15
高分子工学	栗田・田川	9	12
固体触媒化学	山田	6	8
燃料化学	植竹	7	9
産業環境化学	市川	5	7
電気化学	上野	6	8
炭水化合物	宮森	2	2
金属化学	門井	0	0
計		76	88

### 海外技術・語学研修

海外研修を終えて 岩井 泰子

カナダ・アメリカと聞いて何を思い浮かべますか。

私は、今回のこの一ヶ月の海外研修から、たくさんのものを得て帰国しました。この海外研修は、三週間カナダに滞在し、大学で語学研修を受け、後アメリカへ渡り、ジャスパー、バンフ、シアトル、サンフランシスコと観光をして周遊し、東京へというコースです。私にとり初めての海外旅行。不安だらけで、はつきり言ってお発問際には「行きたくない」と思う始末。でも私なんて結局単純で、いやいや乗った飛行機も、飛び立ってしまえば、心はもうカナダなのでした。

カナダは、すばらしいです。何がと言われても、ただ、ただすばらしいと答えるだけです。何もかもが広々と、ゆったりとしているのです。これは島国の日本人からこそ、こう強く感じたのだらうけれど、とにかく、自然の中で生活できるあの感覚がうらやましく思えました。カナダの人々が

やさしく、大らかなのは、こんな環境からの影響なのでしょう。狭い日本ではどうにもならないことですが、

大学でも感心させられたことがいくつかありました。カナダの学生は、とにかく、一人の人間としての自分をしっかりと持っているような気がしました。私がカナダの大学で親しくしていた22歳のイラン人の女性は、4ヶ国語ほど話せ、現在は日本語を勉強中。こちらの大学を卒業した後には、日本への東大に入りたいと、しっかりとした日本語で話してくれました。イラン人の友達とは英語、アメリカ人の友達とは英語、と使い分けが上手で、こんなのが羨ましい。親に学費を出してもらい、ぜいぜいと思うけれど、私はもっと勉強したいとも思っていました。きっとこれが、学生のあるべき姿なのではないか。

私が二週間お世話になったホームステイ先の家族は5人家族。3人の子供達も、もうすっかり、親の手を離れたといった状況の中で

のホームステイでした。私の未熟な英語で、感謝の気持ちが十分に伝えられなかったことがとても悔まれますが、ご両親のご厚意は、格別のものでした。いつかきっとこのカナダの両親を、また訪ずれる日が来るのを今から楽しみにしている私です。

アメリカでの一週間は、ちょっと慌ただしかったように思いますが、ホテル、バス、ホテル、飛行機と移動が大変でした。しかし、コロンビア大氷原、レイクローザ等を周ってみると、人間のちっぽけさと、自然の偉大さを、まさまじと感ぜさせられました。毎日の生活の中で、人には様々な喜び、かなしみ、そして苦しみがあるはずですが、そんな事はこの大自然には、全く通用しないのです。ただ一つ確かなのは、ちっぽけな人間の存在だけ。なんだか気持ちが洗われるような気がしました。

スーと体の力が抜けていくように、今回の海外研修で得た最後の一つは、友人です。色々な人を知りました。たった一ヶ月間で、寝起きを共にして、何もわからない外国で頼りにできるのは確かに周りの人達だけ。不安な時はいつでも

力になってくれました。すっかりみんなやさしい人になっているのです。もしかしらこれこそ、広々とした自然のお陰なのかもしれせん。

最後に旅行を終えた今現在の私が、文頭の質問に答えるとするならば、カナダ、アメリカは、やさしさと、大自然の共存する国ときっと答えることでしょう。

(工化三年)

海外技術・語学研修を引率して 植竹 和也

海外語学研修は理工学部学生を主な対象として、実際に役立つ語学研修、国際感覚の養成などを目的として技術外国語委員会が企画立案実施プログラムを決定後、理工学部が主催し、参加学生に教職員が同行して夏期に約一ヶ月間実施するもので、昭和五十六年に第一回が行われて以来昨年までに第六回を数えるに至っている。

第一回から第四回までは海外語学研修として、アメリカ、オレゴン州、ポートルランド大学(第一回)、南オレゴン州立大学(第二回)、第四回)で英会話研修、ホームステイなどを通して、さらにキャンプ、川下り、名所見学など楽しい行事も盛り込んで、生きた語学研修ができるように行ってきた。

私は昭和五十九年秋に委員会のメンバーとして参加したが、第五回(昭和六十一年)からは企画を一押し、カナダ・アメリカ(主たる研修地はカナダ、バンクーバー市、ブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)、英会話レッスン、ホームステイ、キャンプ、小旅行などの従来の語学研修に加えて、カナダの製材産業や化学工場見学、シアトル市のボーイング社、さらにサンフランシスコのシンテックス社化学研究所見学等、技術研修を取り入れたことが大きな特色であった。

第五回の研修旅行は八月十六日から三十日間行われ、募集定員三十名をはるかに上回る五十四名の参加者、四名の教職員が同行してスケジュール通りこなした。多大の成果を挙げた無事帰国した。付記す

### 駿河台あたりの思い出



山岡 正彦

横手 正夫

略歴

大正元年生れ。東京帝国大学工学部応用化学科卒。昭和十四年九月から日本大学工学部(現理工学部)工業化学科教授。昭和五十二年停年退職。現在は大学院の非常勤講師。工学部(郡山)非常勤講師。

工業化学科のある二号館の前、古くは山脇服飾学校だかの女の学校があり、今、山の上ホテル別館となっている所には華族の出だとかいう小松という医者の家があり、角力取りの人が病人として来ていたものであり、しばらく行かないとすっかり変っている。

工業化学科のある二号館の前、古くは山脇服飾学校だかの女の学校があり、今、山の上ホテル別館となっている所には華族の出だとかいう小松という医者の家があり、角力取りの人が病人として来ていたものであり、しばらく行かないとすっかり変っている。

工業化学科のある二号館の前、古くは山脇服飾学校だかの女の学校があり、今、山の上ホテル別館となっている所には華族の出だとかいう小松という医者の家があり、角力取りの人が病人として来ていたものであり、しばらく行かないとすっかり変っている。

工業化学科のある二号館の前、古くは山脇服飾学校だかの女の学校があり、今、山の上ホテル別館となっている所には華族の出だとかいう小松という医者の家があり、角力取りの人が病人として来ていたものであり、しばらく行かないとすっかり変っている。

大に勤務していた期間が約三十八、九年、化学科内でのいくつかの思い出に移ることにしよう。

その間は毎日のように工業化学科の研究室に通い、駿河台、神保町あたりを散歩したものである。東京は変化が激しい。この三十年間、染料、有機合成の方の研究に熱中して来たものである。夕方になると思ひ出し、同じ建物の中の工業化学科、たまたまは薬学部の先生の研究室を訪ねるとして持ってくるのが切れて、パチンコ屋に行く。黒柳先生は昔、学生の頃に高木山名人とならび称された黒柳悠々という連珠の高手者であって、卒業生に夕刊フジの連珠欄に毎日執筆している坂田吾朗八段がいるし、工業化学科にはこの方の伝統があるらしい。五十二年停年退職。現在は大学院の非常勤講師。工学部(郡山)非常勤講師。

趣味のコーナー

山と文と 市川 次良

背中が汗が瞬間に冷たくなる。「アッまた震だッ」岩角を掴まえている指が途端にジンと凍えるような感覚になる。しかしその手を放す訳には行かない。「早く翼が去ってくれないかなッ」折るような気持ちで、空いている片方の手で他の岩を掴んでいる。

滝谷を照らす秋の日はこのほど短い。気がかりな私はすぐ上方に居るMに頼って下り。「オー、良いホールだ。どの辺りなんだ」上からは至極のんびりした声が響いてくる。「マア少し頑張ってください。腰を伸ばさないよ」「そんなことを言っても届かないんだ。ちょっとザイル引いてくれよ、僕は滝谷は初めてなんだから」

その頃話題を呼んだ『井上靖』の小説『明日くる人』の主人公の最後の地、穂高岳の滝谷は、「山好き」を自認しながら、良いチャ

編集後記

燃料化学研究室

入学試験や卒業研究発表会が終わり、一息ついたと思う暇なく、工化時報の編集作業を行わなければならない、相変わらずのヤツケ仕事となつてしまったことをまずはお詫言いたい。

▼本号は読みやすい紙面を目指し、今までの簡易な印刷から、工化会館の予算を増やしてもらい、多少なりとも上等な印刷に切り替えた。ただし、印刷所いわく「この納期ではネ」では、いささか心もとないのが偽らざる心境である。

▼学生欄の特集では、理工学部で数年前から行われている「海外技術・語学研修」を取り上げたが、紙面の関係で参加した学生と引率教員に依頼した原稿しか掲載できなかったのが残念である。

海外研修を終えて 岩井 泰子

カナダ・アメリカと聞いて何を思い浮かべますか。

私は、今回のこの一ヶ月の海外研修から、たくさんのものを得て帰国しました。この海外研修は、三週間カナダに滞在し、大学で語学研修を受け、後アメリカへ渡り、ジャスパー、バンフ、シアトル、サンフランシスコと観光をして周遊し、東京へというコースです。私にとり初めての海外旅行。不安だらけで、はつきり言ってお発問際には「行きたくない」と思う始末。でも私なんて結局単純で、いやいや乗った飛行機も、飛び立ってしまえば、心はもうカナダなのでした。

カナダは、すばらしいです。何がと言われても、ただ、ただすばらしいと答えるだけです。何もかもが広々と、ゆったりとしているのです。これは島国の日本人からこそ、こう強く感じたのだらうけれど、とにかく、自然の中で生活できるあの感覚がうらやましく思えました。カナダの人々が